

ホームページ公開資料：臨床に関する情報公開

<対象>

- ①筋萎縮性側索硬化症（ALS）と診断された患者
- ②対照群として神経内科疾患の ALS 以外の患者

ALS に関しては国際診断基準である改訂 El Escorial 診断基準で Possible 以上の方
年齢・性別は問わない

<背景・目的>

筋萎縮性側索硬化症（ALS）は運動ニューロンが系統的に侵される神経変性疾患であり、根本的な治療法がない難病である。近年、新たな治療法開発が進んでおり、早期診断・早期治療介入の重要性が増している。また病態の全容を明らかにして新たな治療標的を同定することも治療開発の観点から重要である。本研究では、ALS 専門外来で診療している患者さんを対象とし、臨床所見・血清・電気生理学的指標・画像・髄液の変化を日常診療の合理的な範囲で経時的に追うことで病態進展に関与する因子を抽出することを目的とする。

<方法>

ALS を疑う場合、通常は入院精査を行い、診断をつけることになる。診断のためには類似の症状を来す疾患の徹底的な除外が必要であり、そのための検査項目として、診察・血液検査、髄液検査、神経伝導検査、反復神経刺激法、針筋電図、画像検査（CT・MRI）は必須の検査である。入院精査後は外来に移行するが、進行性の病態であり外来診療の重要性も高い疾患である。外来フォローアップ中にも診察・血液検査や画像診断は必要に応じて日常診療の範囲で行うことが多い。これらの日常診療から得られた情報を詳細に解析することにより、ALS の臨床経過に影響する因子についての探索を行っていく。また病気の成り立ちへの影響を評価するために DNA を採取し、東北大学と共同研究でゲノム解析も行う。
対照群の髄液採取、血液検査、画像検査は診断目的の診療の範囲で行う。

<研究期間>

研究期間：2020 年 7 月（倫理委員会承認後）～2026 年 3 月（延長あり）

<研究に用いる試料・情報の種類>

情報：病歴、診察所見、ALSFRS-R 点数、電気生理・画像検査データ等、呼吸器データ、カルテ番号

試料：血液、髄液、DNA 等

<外部への試料・情報の提供>

共同研究先の東北大学とは試料・情報の、フィリップス社とは呼吸器データを中心とした情報のやりとりを行う。

<外部から試料・情報の取得と保管>

共同研究先の東北大学からの試料・情報の、フィリップス社とは呼吸器データを中心とした情報のやりとりを行う。外部との試料・情報のやりとりに際しては個人情報の匿名化を行い、厳重に保管する。

<研究組織>

社会医療法人将道会総合南東北病院
東北大学神経内科

本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

連絡先：

〒989-2483 宮城県岩沼市里の杜1丁目2番5号 総合南東北病院 0223-23-3151
脳神経内科 加藤昌昭